

『ひやまファーマン教室』レポート

於：平成23年7月12日(火)奥尻中学校



北海道南西沖地震災害から18年目のこの日、奥尻町で開催された『ひやまファーマン教室』は、校舎から校庭へ避難する一次訓練・津波を想定し高台へ避難する二次訓練と、防災意識の高い訓練が行なわれました。(M8・2 / 震度6を想定 / 生徒34名) 結果は、一次避難所要時間2分40秒・二次避難所要時間4分25秒となり、日頃の防災意識の高さから迅速な行動が身につけている様子が見られました。(教員15名)



屋外訓練の後、奥尻消防署：山下孝一(消防指令)と菊地賢行・長谷川隆(消防士長)の講話が行なわれ、火災の初期消火・地震に伴う基礎知識・津波からの避難方法・緊急消防援助隊として東日本大震災(石巻市)へ派遣された活動内容等が話されました。参加した生徒は、1993年に起きた北海道南西沖地震災害を目の当たりに体験していない世代であるため、その受け継がれる教訓を確かに吸収し得たことでしょう。

< 奥尻消防署 >